

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立伊香立小学校

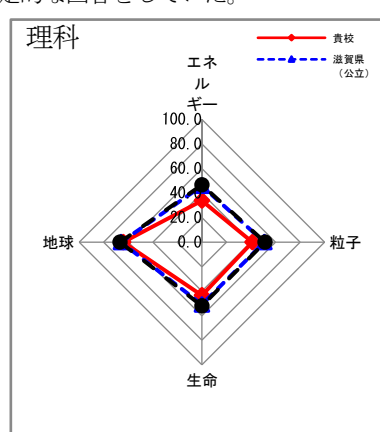
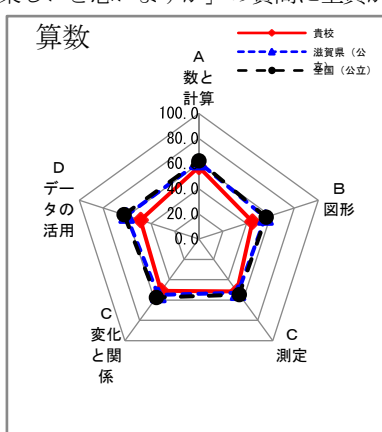
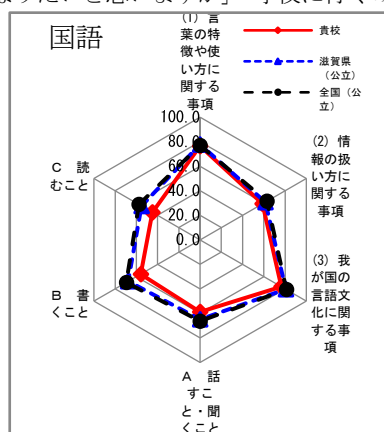
○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

概要

本校の平均正答率は全国平均と比較して、三教科ともに7～9ポイント下回る結果であった。学習指導要領の内容や領域別に見ると、全国平均に近い項目もあったが、14ポイント近く下回るものもあった。また、質問紙調査では、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に全員が肯定的な回答をしていた。



強み・弱み

「解答を文章で書く問題に対して最後まであきらめず書こうと努力した」「国語や算数などは苦手だが、将来社会に出た時に役に立つ」と回答する児童が多く、この粘り強さが強みとなり、学習に対する姿勢を支えている。本校では一昨年より授業後に自分の学びを振り返り、自分の考えを文章で書き、次時に繋げてきた。このことで自分の考えを書くことへの抵抗は少なくなり、書いて伝えることを楽しむ児童もいる。しかしながら、学力調査の解答結果を見ていくと、記述式で低い正答率であった。問いに対する答えを自分なりに書いてはいるものの、考えや理由を適切に表現していくことが苦手であると見受けられる。その要因として、語彙力や表現力が低いこと、文章全体や段落相互の関係、図表と文章の関係などを把握する力が弱いこと、文章を正確に読み取れていないことがあげられる。文章を正確に読み取り、問われていることを的確にとらえる力をつけていくことも今後の課題として考えられる。

【指導の充実に向けて】

- ・本年度取り組んでいる授業研究を一層進め、「まとめ」や「振り返り」の時間を確保し、子ども自身が学んだことを学習言語を使って自分の整理できるようにする。
- ・研究教科算数を窓口 to 学んだことをもとに自分の考えを深め、学習言語を使って記述したり、説明したりする指導を充実させていく。
- ・読書活動を活発化させることで様々な言葉や豊かな表現に触れる機会を設け、語彙力を増やし、優れた文章表現を学ぶための工夫をする。
- ・ICT機器を適切な場面で活用し、主体的に学ぶ姿勢を高めていく。さらに、学んだことや自分の考えを表現するためのツールの一つとしてプレゼンテーションなどICTを活用できる場を積極的に取り入れていく。
- ・高い自己肯定感を大切にするため、生活科や総合的な学習の時間を核として伊香立の地域教材を取り入れた学習を充実させ、地域や家庭も含めた関わりを通して、伊香立を愛し、誇りに思う気持ちを養い、豊かな心の育成を図る。

